

もうひとつのハワイアン・ミュージック

日本でハワイアン・ミュージックと言えば・・・

多くの方がイメージされるのは、スチール・ギターの甘い調べに、ポロンポロンとかき鳴らすウクレシのリズム・・・ではないでしょうか？

それは、戦前から日本人にとって深いなじみのある音楽であり、また日本の大衆音楽史の中で大変大きな影響力を持ってきた存在であったからである、と思います。

しかし、ハワイには、古くから愛され続けてきた、もうひとつのスタイルの音楽があります。それが、スラッキー・ギター・スタイル (**Slack-Key Guitar Style**) です。あまりなじみのない名前かもしれませんが、でも、その歴史はウクレシやスチール・ギターが生まれるよりもずっと古く(*)、1830年代にまでさかのぼります。ハワイがアメリカ合衆国に併合されてしまうよりずっと昔。まだハワイが独立国、ハワイ王国であった頃です。

そのころハワイでは、以前にイギリス人から贈られた牛が保護された結果、野放し状態になり、農作物等を荒らすことが問題になっていました。その対策として、当時のハワイ国王カメハメハ三世は、アメリカ大陸メキシコよりバケルーと呼ばれるカウボーイ達をハワイに招聘し、ハワイの人たちにカウボーイ教育を受けさせたのです。1832年のことです。

やがて、カウボーイ教育カリキュラムが終わり、大陸のカウボーイ達は帰って行きましたが、彼らの置き土産がありました。それは大陸のカウボーイ達が自分達の楽しみのためにハワイに持ち込んできたギターという楽器でした。

ところが、ハワイの人たちは投げ縄や馬の乗り方は教わりましたが、ギターの弾き方は正式にしっかりと習わなかったようです。楽譜も読めなければ、ギターの調弦(音合わせ)の方法さえよく分かりません。

でも、好奇心豊かなハワイの人たちは「こんなもの自分達には使えないよ。」なんてことは思いませんでした。

この大陸からのプレゼントに、自分達独自の方法で新しい息吹を与えたのです。

ギターを練習したことのある方ならお分かりになると思いますが、ギターを演奏する時に最初にてこずる面倒な作業がありますね。調弦です。ある一定の決められた音に、ギターのそれぞれの弦を合わせなければなりません。特に初心者にとっては大変な難行です。ギターを習い始めても、この調弦がうまくいかなくて、投げ出してしまった人も少なくないのではないのでしょうか？

ハワイの人たちは、その難行のもととなる調弦について工夫をしました。本来の調弦法なんて分からないので、とにかくポロンと鳴らして自分達が心地よく感じる音にシ

ンプルに調弦してみたのです。その調弦方法は従来の方法よりも弦の張りがゆるい状態に合わせられていました。それが、スラッキー (**slack-key** : ゆるい調子) という名前の由来です。ハワイの言葉ではキー・ホーアル (**kī hō'alu**) と言います。

そして、その調弦で自分達のなじみのある音楽を奏で始めました。それらはハワイ古来の歌であったり、キリスト教宣教師に教えてもらった賛美歌であったり、大陸のカウボーイ達が歌っていたのを真似たものであったりしました。もともとそれらの音楽は比較的シンプルな旋律で作られていたので、そのような調弦とよくマッチしたのでしょう。

それが、ハワイのスラッキー・ギター・スタイルの始まりである、と言われていました。それは、ハワイにおける近代弦楽器演奏の歴史の始まりでした。

(同じ頃にヨーロッパからの船員によってハワイにギターが持ち込まれていた、という可能性も論じられることがありますが、そちらのルートからはハワイの人たちにギターが広まることはなかったようです。)

また、その調弦方法も演奏する人によっていろいろ工夫され、それぞれ自由な音階でなされました。ですから、「これが正式なスラッキー・ギターの調弦である。」というものは存在しません。演奏者によって、家族によって、いろいろな調弦があることがこの奏法の特徴のひとつと言えるでしょう。その音色はその何種類もある調弦方法によってそれぞれ個性づけられるところですが、概してゆったりとした中にキラキラときらめくような心地よい響きを持っています。

しかし、スラッキー・ギターは、その美しい音色にもかかわらず、その後それほどポピュラーな音楽にはなりませんでした。

それについては、次のようなことが理由のひとつとして挙げられます。

昔、ハワイでは、スラッキー・ギターという奏法は、むやみに公衆の前で演奏したり、他人に教えたりすることをタブーとされており、ひっそりと家族や親族等一部の演奏者の間でのみ伝えられてきたのです。

(スラッキー・ギターは、あまりにも心地よい音色で人の心を魅了するので、その奏者は特別な力を持った魔術使いのように思われていた、というような昔話もあります。)

そのうち、アメリカからたくさんの人々が軍事、観光、商用等でハワイを訪れるようになってくると、当然アメリカ人達の好むスタイルの音楽も入ってきます。そこで、またハワイに新しいスタイルの音楽が生まれました。いわゆるハパ・ハオレ・ミュージックです。(ハパは半分、ハオレは白人という意味のハワイ語です。つまり白人とハワイの混血音楽というような意味になります。)

その音楽は当時アメリカ人に大変好まれていたジャズのエッセンスも取り入れられ、それにハワイで生まれた楽器であるウクレレやスチール・ギターが演奏に使われ、アメリカ人達の南国の楽園ハワイへの思いを盛り上げました。そして、その新しいハワイアン・ミュージックは商業的にも成功し、ハワイの音楽として見る見るうちに世界に広ま

って行きました。冒頭に述べたところの日本で昔からなじみ深いハワイアン・ミュージックは、実はこのスタイルを受け継いでいるのです。

さて、ハワイを訪れる観光客達にも支持され、商業ベースに乗り大きな市場を獲得したハパ・ハオレ・ミュージックに対して、片やスラッキー・ギターは・・・商業ベースに乗りさえしなかったものの、ハワイの人たちが自分達の楽しみのために演奏する音楽として、家族や友人同士の集まりの中で演奏され続け、静かに伝えられてきました。（当時の単純な調弦方法のスラッキー・ギター・スタイルでは、ハパ・ハオレ・ミュージックの重要なエッセンスのひとつになっているジャズ風の複雑なメロディーや和音の表現は難しかったと思われます。このこともスラッキー・ギター・スタイルが当時の商業音楽になり得なかったことの要因のひとつでしょう。）

ところが、あるときスラッキー・ギターにとって転機がやってきます。1950年代から1960年代にかけて、前述のタブーはほとんど消えてしまい、スラッキー・ギターの演奏は精力的に開放されるようになってきたのです。レコード会社によるスラッキー・ギターのレコーディングもなされるようになり、1970年代にはスラッキー・ギターの教則本も出版されています。

スラッキー・ギターが開放されはじめた当初は、「タブーを冒すよくない行為だ。」と反対する人々もいたそうですが、「このままこの音楽を閉じ込めておくことはハワイの大切な文化の衰退にもつながる。」という危惧を訴える人々もいたそうです。

そして今、ハワイではハワイアン・ミュージックを語るときに、スラッキー・ギターという言葉は大きな割合で登場します。若いスラッキー・ギタリスト達もハワイのメジャーな音楽シーンで大活躍しています。

一方、日本では、知名度という点ではまだまだスラッキー・ギターはウクレレやスチール・ギターにはかなわないところです。

とは言うものの、最近、日本においても、このスラッキー・ギターがハワイのイメージ・サウンドとしてテレビ等で流れるようになってきました。

スラッキーという言葉は知らなくても、耳にした方はたくさんおられると思います。

Slack-Key MARTY

<http://www.slack-key-marty.com>

*参照

1832年：アメリカ大陸のカウボーイによりハワイにギターが持ち込まれる。

1879年：ウクレレの原型となる楽器がポルトガル系移民によりハワイに持ち込まれる。

1885年：スチール・ギターのように金属棒を弦の上ですべらせて弾く奏法がハワイで誕生する。（1889年説もあり）

1931年：現在のように電気をつかってアンプで音を出す仕組みのスチール・ギターが製品化される。